

平成17年度研究主題

自立への支援

—キャリア発達の視点を踏まえて—

第一章

研究主題

一 主題設定の理由

開校から昨年度まで、教育課程作りを研究課題として実践研究に取り組んできた。昨年度から「総合的な学習の時間」を研究課題に加え、これによって本校の教育課程のすべてを実践的に研究することができた（※図1）。

一方、障害者基本法の一部改正や発達障害者支援法の施行、障害者自立支援法の成立等々、ノーマライゼーションの実現に向けて、障害のある人々を保護する対象から、活動し参加する主体として支援しようとする理念のもと、社会全体が大きな変化を遂げようとしている。

本校は「職業自立・社会自立」を目指し、三カ年を通して必要な知識・技能・態度、生きる力を身につけることができるよう教育課程を整備してきた。しかし現状に止まるのではなく、変化する社会の動きを常に視野に入れ、一人一人にふさわしい自立と、そのための支援のあり方について実践を一層深めていかなければならない。

そこで「自立への支援」を研究主題とするとともに、喫緊的な課題を焦点化した副題を設け、その課題解決のための実践研究を進めるようにした。

二 副題 「キャリア発達の見

点を踏まえて」について

就労に関する喫緊的な課題と学校教育のつながりについて、文部科学省では「キャリア教育」の推進を図ることを各学校に求めている。職業教育と就労支援を実践の中心としている本校では、望ましい勤労観・職業観を養うことを主眼とするこの「キャリア教育」の考えを踏まえることによって、本校の抱える課題を解決する糸口が見えるではないかと考えた。

(1) 本校の課題

○就労先への定着率の向上

開校以来、本校卒業時の平均就職率は98.1%となっている。一方、就職先への定着率では、年々その数値が下がってきているのが現状である。

卒業年度	就職率	定着率	離職の主な理由
十二年度	100	55	・事業所都合
十三年度	100	66	・欠勤
十四年度	97.9	77	・人間関係
十五年度	100	87	・労働意欲の減退
十六年度	97.7	89	・体調不良
十七年度	93.1		

離職の理由については「事業所都合」がその大半を占めているが、就労意欲の減退、人間関係のトラブルなども挙げられている。卒業生自身の問題によるトラブル等について、その原因を突き止めるとともに、在学中にそのような問題を解決する力を養っておきたいと考えている。

○本校の役割の遂行

県内唯一の高等部単独養護学校であり、職業学科を有する本校は、軽度知的障害者（軽度発達障害を併せ有する者を含む）の職業教育について先導的な取り組みを進める役割を担っている。

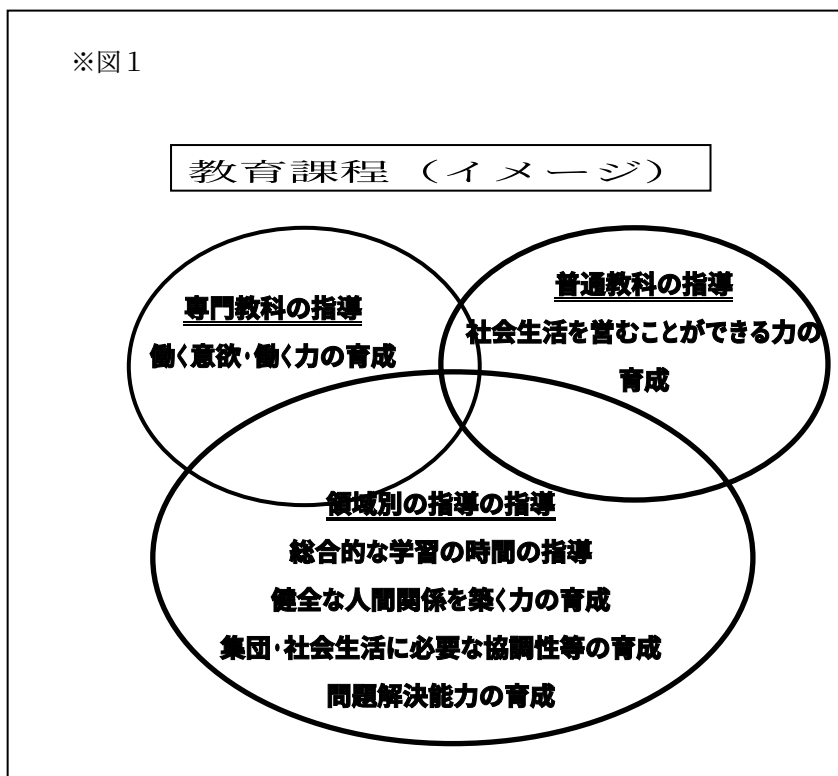
(2) キャリア教育の基本方向と推進方策について

○文部科学省

文部科学省では、キャリア教育の基本方向として次の四点を挙げている。

- ① 「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上
 - ② 一人一人のキャリア発達への支援
 - ③ 社会人・職業人としての資質・能力を高める指導の充実
 - ④ 自立意識の涵養と豊かな人間性の育成
- また、そのための方策として教育課程への位置づけや生徒実態に応じた学習プログラムの開発などを示している。

※図1



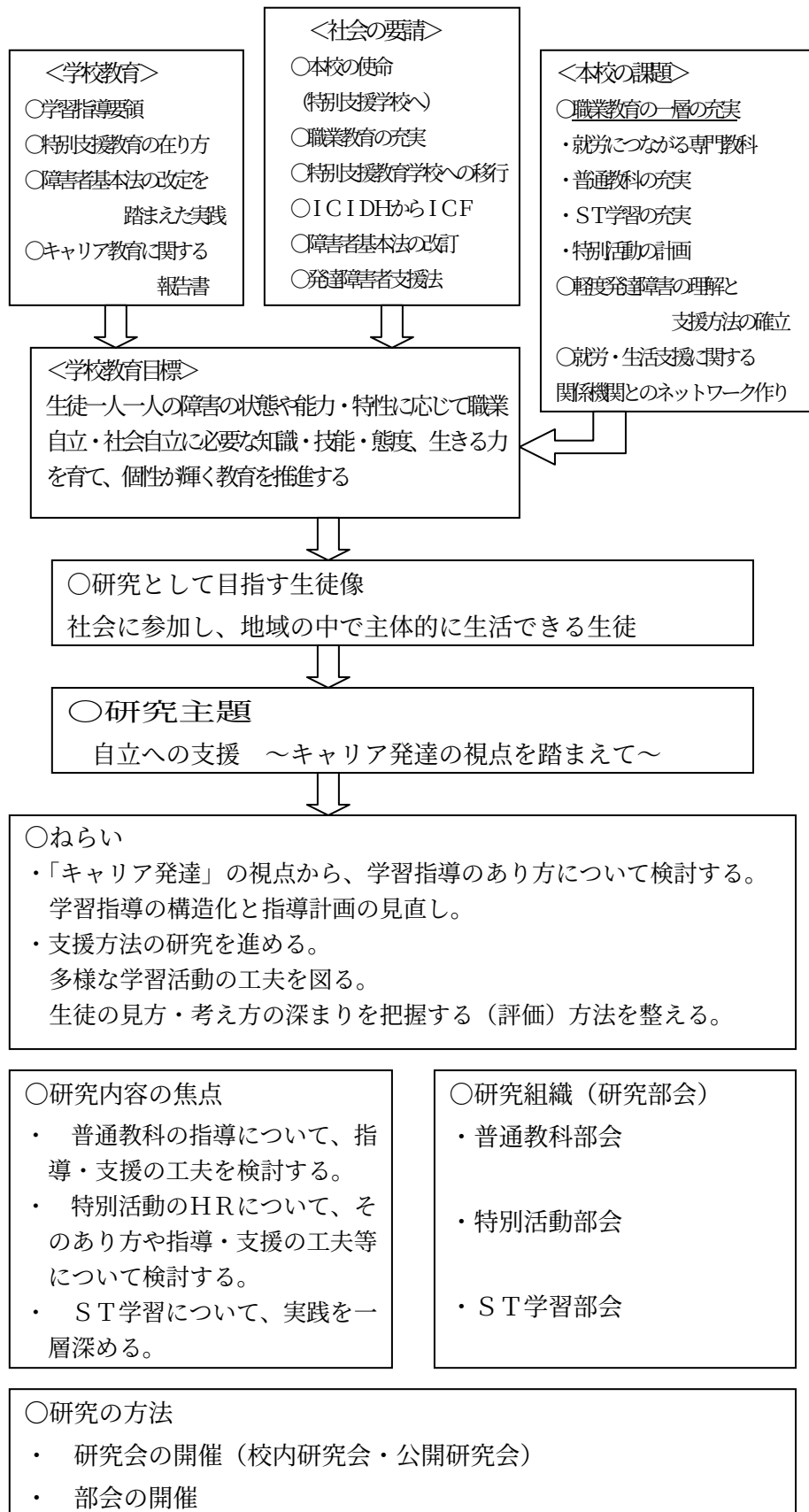
副題の設定にあたっては、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」（平成十六年一月）にある「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」を活用し、ここに示されている「職業的（進路）発達にかかわる諸能力」（※図2）を実践の視点とした。

※図2

職業的（進路）発達にかかわる諸能力		
領域・領域説明	能力説明	
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共司してものごとに取り組む	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 【課題解決能力】 意識決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

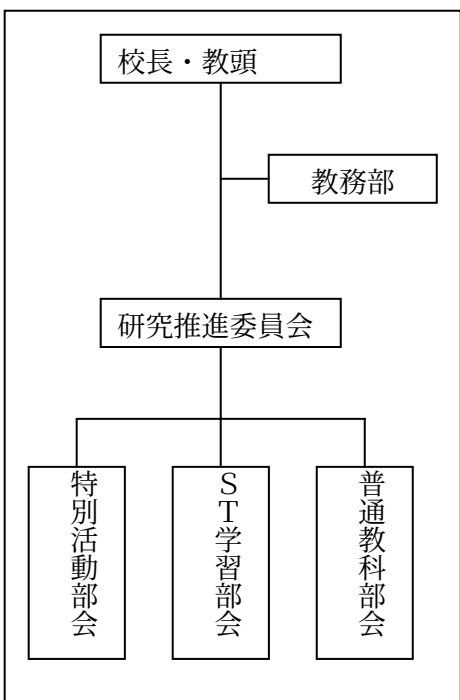
第二章

今年度の実践 — 副題に沿って —



二 研究計画

(1) 研究組織



(2) 部会の活動

- ・活動計画を作成する。
 - ・部会ごとに仮説と達成目標を設定して研究を進める。
 - ・部会の定例会を設け、定期的に研究協議を行う。
 - ・部会内での授業研究を行う。
- 全部員が指導案作りに関われるように、計画的に授業研究を進める。

(3) 研究会

○校内研究会

① 第一回校内研究会

- ・実施日 平成十七年九月九日（金）
- ・内容 授業展開

② 第二回校内研究会

- ・実施日 平成十七年十二月十六日（金）
 - ・内容 授業展開
- 全体協議会（各部の報告・授業提案、全体協議）

③ 第三回校内研究会

- ・実施日 平成十八年三月十四日（火）
- ・内容 全体協議会（各部の報告、全体協議）

○公開研究会

- ・実施日 平成十七年十一月十日（木）
- ・内容 授業展開・分科会・全体協議・講演会等

(4) 研修会

① 第一回主題研修会

- ・実施日 平成十七年五月十日（火）
- ・内容 研究主題・副題について共通理解を図る。

②第二回主題研修会

- ・実施日 平成十七年十月十九日（水）
- ・内容 公開研究会に向けて、共通理解を図る。

○全校研修会

- ・実施日 平成十八年三月二十二日（水）
- ・内容 一年間の研究の成果と課題を確認する。

(5) 評価・調査について

- ・実施時期 六月上旬・十二月中旬を目安に実態調査をする。
- ・評価調査内容

研究内容に関する実態調査を行う。

(6) 主な日程計画

月日	研究会等	主な内容
四月 六日	企画運営委員会	研究計画提案
五月 十日	研修会	主題研修会一
五月十七日	研究推進委員会	研究計画の確認等
六月 二日	企画運営委員会	校内・公開研究会計画提案
六月三十日	企画運営委員会	公開研究会計画提案
九月 七日	研究推進委員会	校内研究会指導案検討
九月十九日	校内研究会一	授業研究・協議会

月日	研究会等	主な内容
九月 七日	研究推進委員会	校内研究会指導案検討
九月十九日	校内研究会一	授業研究・協議会
十月 五日	研究推進委員会	公開研究会指導案検討等
十月十九日	研修会	主題研修会二
十月二十六日	研究推進委員会	公開研究会指導案検討等
十一月 二日	研究推進委員会	公開研究会最終確認
十一月九日	公開研前日準備	公開研究会前日準備
十一月 十日	公開研究会	研究授業 協議 シンポジウム 記念講演会
十一月十六日	研究推進委員会	公開研まとめ 校内研究会計画 紀要作成計画
十二月 一日	企画運営委員会	校内研究会計画確認 紀要作成計画
十二月十六日	校内研究会二	授業研究・協議会
一月三十日	研究推進委員会	次年度研究計画 研究紀要原稿確認 研修会計画
三月十四日	校内研究会三	部会の報告・協議会
三月二十二日	全校研修会	今年度の研究のまとめ 次年度の研究について

三 ST活動部会の実践

(1) 研究のテーマ

ST部会では、「ST学習」の時間の学習活動を通して「生きる力」を育むための支援についての研究を進めている。今年度は、授業実践の工夫（授業展開の方法、教材の開発）に焦点をあて、「生徒の課題意識を高め、自ら進んで課題の解決に取り組める支援の工夫」を目標とした。具体的には、次の二つについて研究を進めた。

○ 「集団学習」でのグループダイナミックスによる授業展開の工夫を
行いながら学習形態や学習活動の内容について考える（整理する）。

○ 授業で使用する教材等の開発（整理）を行う。

(2) これまでの取り組みについて

本校では、これまで「生きる力」を育む「総合的な学習の時間」のあり方について研究を進め、「ST学習」についての研究は今年度で三年目となる。一年目は次のようなことについて整理することができた。

○ 本校としての「生きる力」の捉え

- ・ 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力。

- ・ 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的・創造的に取り組み、自己の在り方・生き方を考えることができる力。

○ 教育課程の位置づけ

- ・ 週に一時間、週日課に設定（年間三五時間）。
- ・ 学級で活動する。
- ・ 「進路学習」をテーマとする。

- ・ 名称を「ST学習」とする。（学校生活のキーワード「自立へのステージ」の「STAGE」とそのための学習ステップの「STEP」の「ST」からの名称。）

○ 学習活動

- ・ 一人一人が学習課題を見付け、個別に学習に取り組む。
- ・ 「ST学習」の時間は、個別に取り組んでいる学習内容を題材として取り上げ、集団学習をする。

昨年度は、「ST学習」の時間の学習活動作りに焦点をあて、その授業を考えるを通して、生徒一人一人の「生きる力」を育てるためにどのような支援ができるのかを考察し、実践を深めた。「ST学習」の時間は、グループダイナミックス（集団思考）による学習活動を基本とし、「創造性の開発」をキーワードにした学習活動作りを目指してきた。授業研究等を通して、グループダイナミックスを生かして、どのような活動を作ることが生徒一人一人の「創造性」を喚起することができるのかが整理されてきた。

これまでの取り組みからは、次のことが課題となった。

- ・ 生徒自身が、自己の在り方・生き方を考えられるようにする。
- ・ 支援・指導の充実
- ・ 指導者の専門性の向上を図る。

これらの課題から、今年度は、一人一人の「創造性」をよりよく開発できる学習活動を作ることを目指していくことになった。

(3) キャリア発達の視点から

「ST学習」では生徒一人一人が課題を持ち、その課題解決に向けた活動を進める。ここでの目標は「生きる力」を育むことである。課題解決に向けた取り組みの過程では、①将来設計能力②情報活用能力③意志決定能力④人間関係形成能力などを育む視点は必要になる。生徒自身で課題解決を進めるが「キャリア発達」の能力を同時に養うことを考えると、生徒が自ら進んで課題の解決に取り組める支援の工夫を行うことが、**「キャリア発達の視点」**と密接に関連していると考えられる。

(4) 実践例 ― 集団討論によるグループダイナミックスでの授業展開の工夫 ―

「ST学習」の時間の展開方法（学習活動）は次の通りである。

- (一) 自分で課題を見付ける（学習の対象は自分自身である）
- (二) 課題解決の方法を考える（計画を立てる）
- (三) 課題を解決する（自ら学び、考え、判断し、解決する）
- (四) 自分の取り組みを振り返る（今後の課題を明らかにする）
※生徒一人一人がファイルに資料や記録を残し、いつでも学習を振り返ることができるようにする。
- (五) これらの活動の体験を繰り返す（そのサイクルに必要な時間、課題の内容、生徒の個人差により自由。）

「ST学習」では、生徒一人一人が自分に課題を持ち、課題解決に向けての活動を進めていく。ここでの大きな目標は、「生きる力」を育むことである。生徒の能力や学力、関心・態度には個人差があるので、「生きる力」を育てていくためには、一人一人にあった支援が必要になってく

る。このことを基本にして、授業作りを行った。学習を進めるに当たっては、生徒一人一人の力で主体的に実現できるような支援を心がけた。以下、授業展開の工夫として、今年度の実践をまとめていく。

☆自分で課題を見付けるための支援

学習課題を決める過程では、「自分を見つめる」学習がとても重要になる。自分をきちんと見つめることができないと、自分で自分の課題を見付けることができないからである。ただ単に、好きなことは？やりたいことは？夢は？と問いかけても、漠然としたもののしか出てこない。「自己分析」、「仕事への思い」などのテーマを決めて自分をとことん見つめ、そこから自分のやりたいことを見付けて学習課題を決めていった。ここでは、一年生が行った授業展開を取り上げる。

「私のしたい・なりたいたい5つのこと」と題した授業では、自分の願いや希望、夢がはっきり分かると、意識して行動ができるようになると思います、次のようなプリントを使用し、自己への気づきを深めていった。

私のしたい・なりたいたい5つのこと

希望	希望	希望	希望	希望	希望	希望	希望	希望	希望
1	人と話すかみしらずに話ができるようになりたい。								
2	一人暮らしがしたい。								
3	絵本を作ってみたい。								
4	たくふんの花の名前をおぼえたい。								
5	パソコンで漢字が打てるようになりたい。								

願いや希望、夢を記入し、記号にチェックを入れる（記入例）

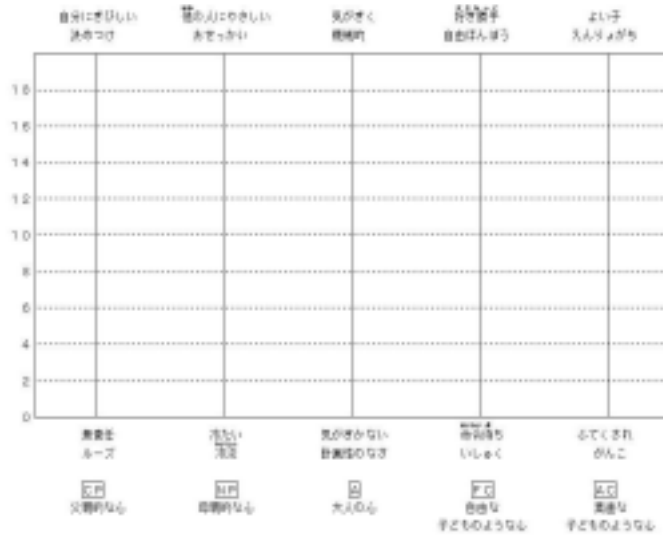
記号の意味カード

記号	記号の意味
A	これは、私の希望や夢を卒業して、大人になってからしたいことだ。
B	これは、授業の予習や復習、または試験勉強と一緒にしたい。
C	これはするに、友達や先生とやる必要がある。
D	これはするに、計画を立てて取り組まないといけない。
E	これはするに、いろいろ調べたり、人から教わる必要がある。
F	これはすること、人から教わる必要はない。早くやることがある。
G	これはするに、お金がかかる。
H	これはするに、いろいろな経験が必要でなければならぬ。
I	これはできたら、とても役に立つ。ストレスも減るかもしれない。
J	これはするに、多くの人の協力が必要だ。

このような、記号の意味カードを参照しながらチェックしていった

題材「自分を知らう」では、「私のしたい・なりたいたい5つのこと結果一覧表」をもとに授業を進めた。学習課題を決めるためには、じっくり自分について考えることが大切であるとし、何がしたいのか？どうなりたいのか？自分はどんな性格なのか？長所・短所は？などのことについて、「エゴグラム・チェックリスト」を使って自分自身を見つめていった。次の授業では、「自分の中の5つの心」と題し、エゴグラムの分析結果をもとに授業を進めた。

「エゴグラム・チェックリスト」をグラフに表した



5つの心の解説用紙

心	心	心	心	心
愛着心	母親心	大人の心	子どもの心	子どもの心
・元気がいい ・けじめのある生活を送る ・ルールを守る ・責任感がある ・自分に厳しい ・リーダーシップがある	・相手の苦悩を感じる ・相手の心を通じ合わせる ・優しく接する ・親切にする ・信頼がある ・ほげます	・計画的になる ・問題を立てて解決を考へる ・冷静に対処する ・しっかりと観察する ・責任感がある ・意図的にならない	・のびのびと明るく ・いろいろなことに興味をもつ ・好奇心が強い ・思い立ったら断、行動 ・夢中になれる	・協力的 ・誰のきにも応答する ・恥づかしがる ・命令に従う ・人に合わせることもできる

○密型

「エゴグラム・チェックリスト」をグラフに表し、自分はどの心が強く、どの心が弱いと考えた。授業では、生徒一人一人のグラフを紹介し、仲間からもそれを見てどう思うか発表するようにした。

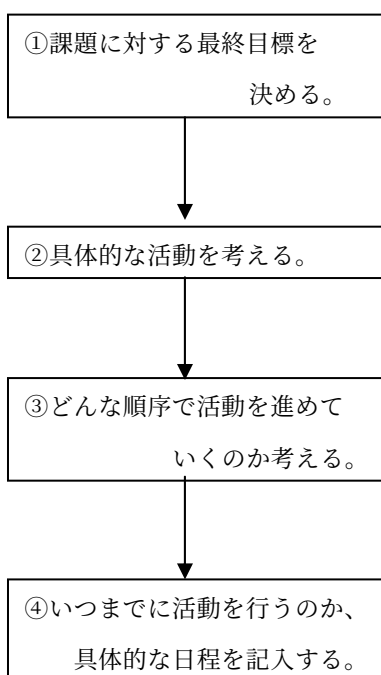
このように、自分を見つめる学習を進め、得意なこと、苦手なこと、身に付けたいことなどを整理しながら、自分の学習課題を決めていった。

☆課題解決の方法を考えるための支援

自分の課題に対して、やみくもに学習を進めたのでは、課題解決のゴールが見えてこない。どんな方法で、いつ、どのように、実験、調査、調べ学習を行っていくのかについて計画を立て、自己が一体どんな課題をどのように解決していこうとしているのかを把握できるようにすることが大切であると考え。課題についての興味や関心を集約させ、焦点を絞ることで考えや想像をまとめるようにし、自分で仮説を立てたり、解決の計画を立てたりしながら、今後の活動への見通しが持てるようにした。三年生では、「自分で計画を立てて学習を進めよう」という授業を行った。授業では、自分の課題や計画について報告をし、課題に対しての仮説や解決の計画について皆で考え、意見やアイデアを出し合った。

「活動のイメージマップを作ろう」という題材で行った授業では、まず、課題解決の目標（ゴール）を考えるようにした。目標に向かってどんな活動をどんな順番で進めていくのかを考え、ゴールまで矢印でつないでいくことで図に表し、具体的な計画を立てていくことにした。こうした「活動のイメージマップ」を作ること、より鮮明な活動のイメージが持てるようにし、具体的な進め方が分かることで、自分で課題解決を進めていけるようにした。

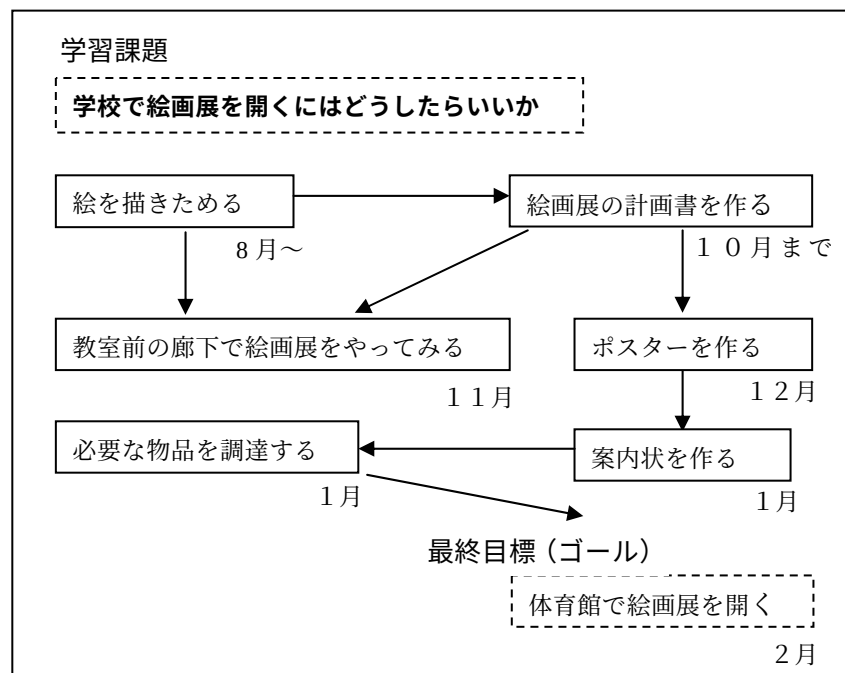
「イメージマップ」作成例



課題解決の具体的な計画ができて、思うように課題解決が進んでいないことが多い。自分で計画を進めていけるようにするためには、試行錯誤の中で、筋道を見付けながら課題に取り組んでいけるような支援が必要である。「自分の活動を振り返って、課題解決の方法を改善していく」という題材の授業では、

① それまでの記録や活動を整理してまとめ、自分の学習の成果合を

☆自分の取り組みを振り返り、次のステージへと発展させるための支援



・授業では、自分の課題や計画について報告をし、課題に対しての仮説や解決の計画について皆で考え、意見やアイディアを出し合った。このとき、調べたいことについて、どんな方法があるのか図に書き込み、どのように実行するのかを考え、出された意見やアイディアをまとめながら図を完成させた。

ST学習 週計画

月 日 () ～ 月 日 ()

□この期間にやること (PLAN)

※そのために何をするか？

具体的な取り組みを考えよう。

□やってわかったこと・考えたこと (DO)

分析しよう。自分の取り組みを・・・

□この期間の自己反省 (SEE)

よくやった◎ もう少し△ ダメだ！×

ST学習進行状況チェック

月 日 学期

① 目標を達成できたことについて・・・

□ 達成した ② 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した ③ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

④ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

⑤ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

⑥ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

⑦ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

⑧ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

⑨ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

⑩ 達成できなかったことについて・・・

□ 達成した

自分で評価する（生徒の自己評価）

② 報告、発表、話し合いなどを通して、仲間の考えを聞き、意見の交流をしながら自らの課題解決を深めていく（生徒の相互評価）

③ 生徒のスキルの発達に対して注意深く留意しながら適切な支援を行う（教師による評価）

の3つを活動の柱にして学習を進めた。ここでは、仲間同士で互いに学びあう関係をつくることと、自分の活動を振り返りながら改善点を見つけ、自主的に解決しようと努力することができるところを目標にした。

上の図は、授業で使ったプリントである。課題解決に向けた活動の内容や、繰り返しのスパンは、学級の様子や生徒一人一人の実態に合わせたものになってくる。そのため、取り組みの様子を振り返り、そのまま授業での発表に使ったり、振り返りのプリント一枚が、そのまま取り組みの週計画になっていたり、それぞれの学級で工夫したものになっている。

「ST学習」で大切なのは、こうした「PLAN」「DO」「SEE」

題解決に取り組んでいけるように支援した。

Plan 計画 (目標を計画を立てる) /

D **o** 実行 (計画したことを実行する)。

会談する、練習する、作る、配付、見る、書く、行う、言うなど。

See 評価 (実行したことを評価する)
 成績表、感想、よくできたこと、わかったこと、
 疑問点、学びたいことなど。

目標や計画を明らかにし、それを教室に掲示することで活動への意欲を高めた。仲間同士で見合うことによってお互いの活動が分かり、励まし合ったり、自分の活動の参考にしたりとすることができた。

日 時 平成 17 年 月 日 5 校時
場 所 1 年〇組教室
指導者 T1
T2

「自分の課題、友達の課題について考えよう。」

1年C組では、今までST学習の取り組みとして、生徒の課題解決のための実践的な時間として取り組んできた。具体的には、「ドラムができるようになりたい」という課題を持っている生徒に対し、教師がドラムを叩けるようになるための段階的なプログラムを提示して一緒に練習をするといった形であった。その結果として技能の向上が見られたり、課題に取り組むための時間を確保したりすることができた。しかし、このような活動では、教師がいなければ「課題を解決できない」「練習もできない」といった問題点がでてきた。そこで、生徒自身が自分の考えた課題と向き合い、自分自身で解決の方法を考えていけるような活動をしたいと考えた。

☆グループダイナミックスの実践例

生徒に「自分自身で課題を解決していこう」と投げかけたところ、生徒たちはみな不安そうな顔つきで「何を課題にすればよいかわからない」「どうすればよいかわからない」と話し始めた。そこで、生徒一人一人と興味を持っていることや、学校生活で生き生きと活動している場面などを思い起こさせながら課題を決定していった。

次の課題解決のための計画（イメージマップ）を立てる段階でもやはり生徒たちから「何をしたらよいかわからない」という意見が出された。そこでその前にクラスメート同士で「どんなことを課題にしたのか」「どうやって課題を解決していくつもりなのか」を情報交換したり、意見を述べ合ったりすることで、模倣（自分もこうしてみよう）・発見（自分では気づかなかったことに気づく）・不安解消（こんなかんじでいいんだ）が期待できるのではないかと考え、本題材を設定することにした。

本時は、この題材の三人目の課題について考えることになる。前回のTさんの課題「自動車整備士になりたい」やSさんの課題「ボクシングのパンチの基礎について調べたい」では、自分の課題解決に不安を抱いている生徒からも「こんなことを調べたらよいのでは」というように具体的な指針が意見として出される場面があった。このことから、生徒たちは自分の課題よりも他人の課題に対して意見するほうが容易に感じているようである。その意味からも本題材で活発な意見交換をすることが、課題解決活動をより自主的で積極的なものにすると考えられる。

3 キャリア発達との関連

「人間関係形成能力」・自分の課題や友達の課題がわかり、尊重しあうことができる。

話し合いのルールを理解し、グループの一員として話し合いに参加することができる。

「情報活用能力」・友達の意見や本、見学などから情報を得て自分の課題解決に利用することができる。

さまざまな情報の中から自分の課題解決に、適切な情報はどれかを考えることができる。

「将来設計能力」・課題解決のための計画作りの必要性に気づき、計画の進め方を考えることができる。

「意思決定能力」・課題解決に適切な情報の中を比較検討し、自分にふさわしい方法を考えることができる。

自己実現のために課題を設定して、取り組むことができる。

4 題材の目標

- ・自分の課題や課題解決に向けて取り組んだこと、わかったことなどを発表することができる。
- ・友達の発表を聞いて、その人の立場になって考えたり、意見を発表したりすることができる。
- ・友達の意見を聞いて、課題解決のための計画を立てることができる。

5 指導計画

①発表のための準備活動

- ・自分がどんなことを課題にしているのか。課題解決に向けて取り組んだことやわかったことなどを発表できるようにする。

②Tさんの課題について考えよう。

- ・「自動車専門学校について調べたい。」

③Sさんの課題について考えよう。

- ・「ボクシングのパンチの基礎について調べたい」

④S T学習活用日を利用して、「自動車専門学校」「ボクシングジム」へ見学に行く。

⑤Iさんの課題について考えよう。

- ・「いろいろなロボットの絵を描きたい。」

以下、クラス全員の課題について話し合っていく。

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・自分の課題や課題解決に向けて取り組んだこと、わかったことなどを発表することができる。
- ・友達の発表を聞いて、その人の立場になって考えたり、意見を発表したりすることができる。
- ・これから自分がどんな活動をすればよいのかを考えることができる。

(2) 展開

時	学習活動	活動への支援
7	○前回までの学習内容を確認する。 ・TさんとSさんの課題について話し合ったことを確認する。 ・TさんとSさんのその後の活動について報告を聞く。	・前回までの発表者（Tさん・Sさん）に進捗状況を話せるように声をかけておく。 ・うまく話せないときはST学習活用日に「自動車専門学校」「ボクシングジム」を見学に行ったことを思い出させるような声かけをする。 →T2の役割
10	○本時の学習内容を知る。 Iさんの学習課題「いろいろなロボットの絵を描きたい」についてみんなで話し合おう。	
	○今までの活動について話す。 ・絵を描くようになったきっかけ ・今まで書きためた絵の紹介	・今回はIさんの課題について話し合うことを告げ、今回も友達から相談を受けたときのように話せば良い事を伝える。 ・Iさんとどのような発表したいかを事前に話し合い、発表準備をしておく。 ・Iさんがうまく伝えられなかったことについては、他の生徒が理解しやすいように補足説明を行う。 ・発表者が話したことを黒板に板書し、自分の話したことを確認できるようにする。 →T2の役割
15	○Iさんの活動を聞いて感想を発表する。	・どんな意見でも参考になることを伝え、活発な意見交換ができるようにする。 ・発表者本人の今まで取り組んできた活動を十分賞賛できるように声かけを行う。 ・今後の活動の幅を広げることに興味や関心が向けられるような意見が出された場合は大きく取り上げたり、具体物（額に入った作品、セル画、作品をポスターのように拡大したもの）を準備したりして提示する。また、絵画展を行った先輩の作品を提示できるように準備しておく。 ・今後の活動の幅を広げることに興味や関心が向けられるような意見が出ない場合は、書きためていく楽しみのほかにも楽しみ方がないかを投げかけ、話し合いのきっかけ作りをする。 →T2の役割
	○みんなの意見を聞いてどう思ったか発表する。	・うまく話せないときは、話の焦点を絞り込み一問一答のような形で話ができるようにする。
8	○本時のまとめ ・話し合いを参考にして自分の活動を振り返り、今後の活動をワークシート記入する。	・Iさんのように自分の活動を広げていけるのではないかということを声かけする。

(3) 評価

○学習の評価

- ・自分の課題や課題解決に向けて取り組んだこと、わかったことなどを発表することができたか。
- ・友達の発表を聞いて、その人の立場になって考えたり、意見を発表したりすることができたか。
- ・これから自分がどんな活動をすればよいのかを考えることができたか。

○支援の評価

- ・生徒の課題を正確に理解し、しっかりと応じることができたか。
- ・生徒の状況をつかみ、適切な発問ができたか。

(5)まとめと今後の課題

「ST学習」の時間では、仲間と一緒に学び合いながら自分の課題についていろいろと考えていくことが活動の中心となる。したがって、課題解決のための活動を行うのはそれ以外の時間となる。つまり、年間三十五時間の「ST学習」の時間を展開するためには、一人一人の課題解決について日常の支援が大切になってくる。意欲を持続させ、追求する力を身に付けていくために、日常では次のような支援が必要であると考えられる。

○新しい技能（スキル）を獲得していくための支援

実際の活動では、はじめて経験する活動や、経験しているものであっても、さらにそのことを深めていく活動が多く出現してくる。活動の計画を立てても、どのように進めていったらいいのか分からなくなることもあり、課題解決を進めていく中では、いろいろな新しい技能（スキル）を獲得していけるような支援が大切であると感じた。

○日常的な場面でも、自ら取り組み、課題を解決するための支援

「ST学習」の時間以外での活動となると、学校では、休み時間や放課後などの授業時間以外の時間をうまく活用することになる。他には、家庭で過ごす時間や休日などである。そのため、限られた時間の中で、課題解決ができる状況を作っていく支援が必要である。

日常的な支援では、生徒一人一人の実態をよく理解し、一人一人にあった支援を考えていくことで、新しい技能（スキル）の獲得ができて行ければと考える。また、生徒の「課題」をよく分析しながら「生徒が自らできる状況づくり」を進め、生徒に寄り添う姿勢で支援をしていくことができたかと考える。こうした日常の支援について工夫を重ねることで、「ST学習」の時間をより充実したものにしていきたい。

四 特別活動部会の実践

(1) 研究のテーマ

「生き方の学習作り」

三カ年を見越した「HR活動」の指導計画と授業作り

(2) テーマについて

「HR活動」は週一回設定されており、各学級で年間を通した計画がたてられている。内容は学級目標や係を決める話し合いや、各行事の事前事後学習などに取り組む他、学級ごとに、それぞれの活動を行ってきた。そこで、本部会では、各学級がそれぞれの計画に従って実施している活動内容を整理し、入学から卒業までの三カ年を見越した指導計画を作成することにした。一年生は初めて出会う学級の仲間との人間関係づくりが必要であり、三年生は卒業後の生活を見据えた授業を計画していく必要がある。それぞれの学年に必要な学習内容を系統的、段階的に整理する事で、より良い学習作りができると考えた。

校内授業研究会では、聖徳大学助教授 鈴木由美先生を講師に「構成的グループエンカウンター」と「VLFによる思いやり育成プログラム」の実践研究を行った。

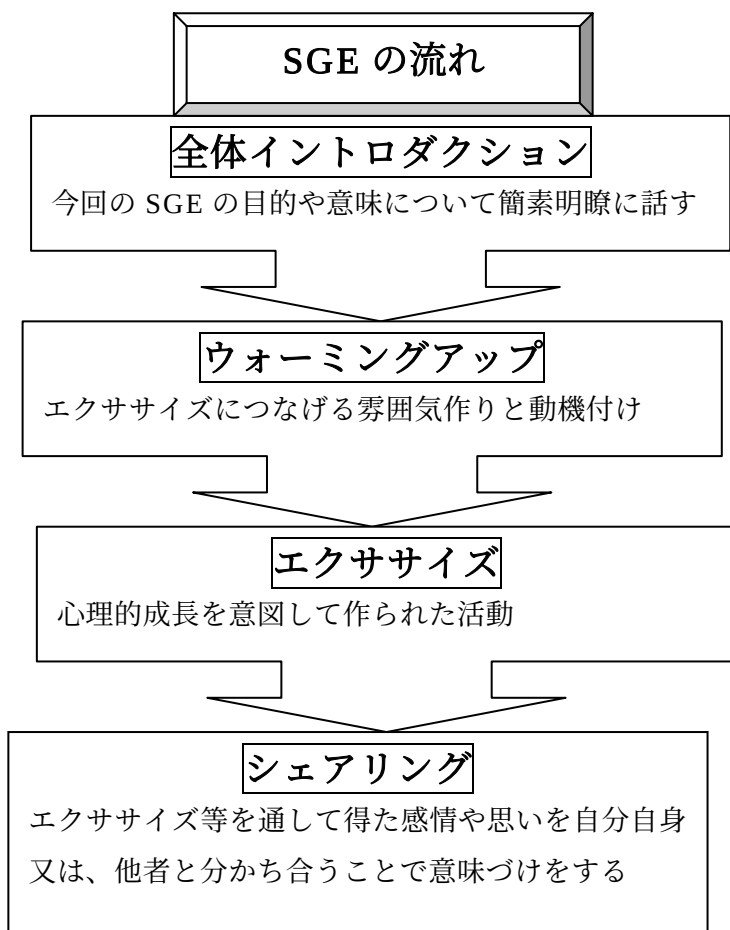
講師の助言を元に年間計画を作成した。社会的スキルを獲得するには段階があり、教師や友達との関係ができてから行うと獲得しやすいものもある。また、行事や時期的な条件も考慮し、三カ年の計画を立てた。今後は、他教科や専門実習との関連も考え、検討していく必要がある。

構成的グループエンカウンター（SGE）

SGEの目的：他者との相互関係を深める。集団体験による自己の成長。

構成的グループ・エンカウンターとは、集団の中で、ルールにしたがって、リーダーが指示するエクササイズ（活動）を行い、知らぬ間に人間関係づくりが進み、それと同時にお互いのホッネの交流によって未知の自己に気づくこと。

構成的「方法」グループ「対象」エンカウンター「ホッネとホッネの交流」



「仲間の良さを見つけ合おう」

1年生には難しいテーマである。まずは自分の気持ちや感情に気付く所から始めると良い

～自己理解と自己実現に向けて～

構成的グループエンカウンター（S G E）実践例

S E Gの流れ	学習活動
イントロダクション	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の活動とねらいをつかむ。
エクササイズ	3 級友や家の人に書いてもらったカードを資料に貼り、読む。 4 書いてもらったものの中で ①自分の良いところとして初めてわかったこと（赤アンダーライン） ②書いてもらって嬉しかったところ（青アンダーライン）に印をつけ、発表する。
シェアリング	5 ミニエクササイズ 「こう見えても私は・・・」をクイズ形式で行う。（4～5名） 6 本時のまとめをする。 自分の良いところがわかったか、他の人の良さや意外なところがわかったか、どう思ったかを発表し合う。

授業に入りやすいようにエクササイズの前にはウォーミングアップを入れると良い。

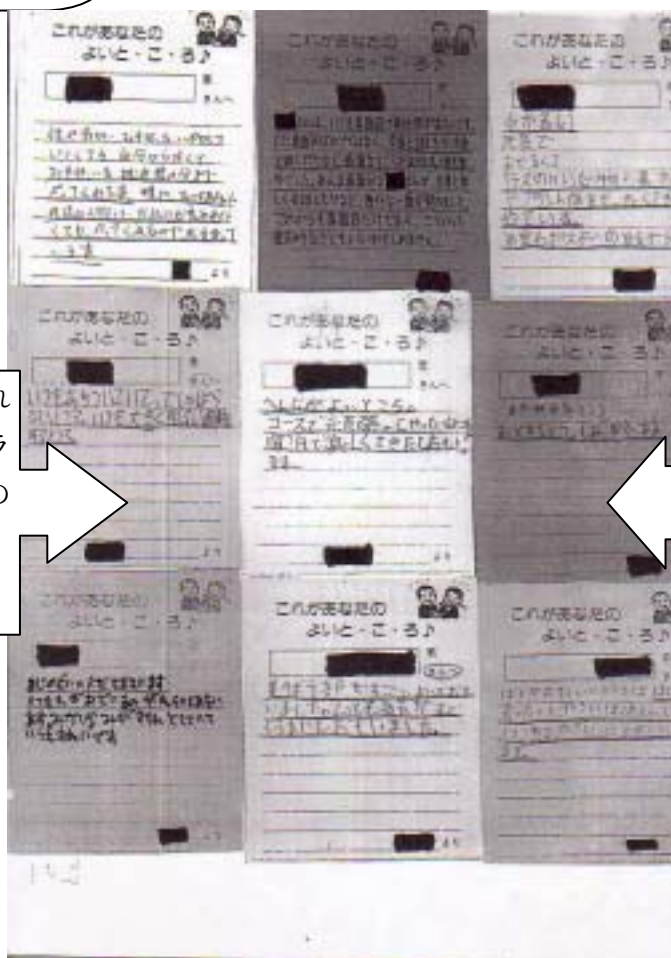
自分の「うれしい」と人の「うれしい」の違いに気付く機会ポイント。

自分の感想が言えなくても、人の感想を聞いて他の人は「こういう事を考えているんだ」と感じるだけでも良い。自己理解他者理解につながる

初歩段階としてはゲーム制のものを取り入れると参加しやすい

初めて言われたこと、うれしかったことにアンダーラインを引くことで、自分のいいところを認識する。（自己理解、自己肯定）

友達の良い所を考えることで、相手の良さ、特徴、考えなどがわかる。（他者受容）



V L Fの流れ

授業	V L F	指導の特徴
導入	結びつき	教師の話 (ウォーミングアップゲーム)
展開	話し合い	登場人物の視点を考える パートナーインタビュー
	実践	ペア活動 ロールプレイ 葛藤のエスカレーター 問題解決のA B C
終末	表現	表現活動 (日記,手紙,物語)
	ホームワーク	実生活につなげていく

V L F (Voice of Love and Freedom ≡ 「愛と自由の声」) とはハーバード大学教授セルマン (Selman, R.L.) がアメリカの学校で蔓延するあらゆる差別、暴力に取り組むために考案した人格形成プログラム。1995年からボストンの幼稚園、小学校などで実施し始めた。

セルマンは「相手の気持ちを推測し、理解する能力」のことを「役割取得能力」と提唱し、段階的に五段階に分けた(下図)。対人間に生じた葛藤の解決や、高いレベルの道徳的判断を行う前提になると考えている。

V L Fの目的: 思いやりの心を開発し、思いやりの行動を育成するとともに、問題行動を予防し、読む、書く、話す、聴く力を育てる。

V L Fによる思いやり育成プログラム

レベル0：自己中心的役割取得（3～5歳）

自分と他者の視点を区別する事が難しい。同時に他者の身体的特性を心理面と区別する事が難しい。

レベル1：主観的役割取得（6～7歳）

自分の視点と他者の視点を区別して理解するが同時に関連づけることが難しい。また、他者の意図と行動を区別して考えるようになり、行動が故意であったかどうかを考慮するようになる。ただし、「笑っていれば嬉しい」といった表面的な行動から感情を予測しがちである。

レベル2：二人称相応的役割取得（8～11歳）

他者の視点から自分の行動について内省できる。外から見える自分と自分だけが知る現実の自分という二つが存在する事を理解するようになる。したがって、人と人との関わる時に他者の内省を正しく理解できる事の限界を認識できるようになる。

レベル3：三人称的役割取得（12～14歳）

自分と他者の視点以外、第三者の視点をとる事ができるようになる。従って、自分と他者の視点や相互作用を第三者の立場から互いに調整し考慮できるようになる。

レベル4：一般化された他者としての役割取得（15～18歳）

自分がいろいろな社会的カテゴリーに属している事が分かる。「言わなくても明らか」といった深いところで共有される意味を認識する。

話が長いと集中しきれないので、文章をカットしたり、2回に分けて取り組んだりする必要がある		2年 E 組 HR 活動 「いろいろな考え」		話題の転換がしにくい生徒がいるのでなくてもよい
授業		学習活動		
導入	結びつき ・教師の話 (ウォーミングアップゲーム)	1 本時の説明をする ・前回の様子について話す。 ・教師の「誤解された経験」を話す。		
展開	話し合い ・物語を読んで登場人物の視点を考える	2 物語を読む 「にじいろのさかなと おおくじら」 3 登場人物の気持ちを考える ・くじらと仲良くなった時のにじうおの気持ちを吹き出しに記入する。 4 グループでインタビューし合う ・じゃんけんでインタビューされる人を決め、発表し合う。 5 物語の続きを読む		
	答えやすい設問にした方がよい ・パートナーインタビュー	6 本時のまとめをする ・生徒の吹き出しを要約して紹介する。 ・話し合いの様子を振り返り、他者の考えを認め合う事ができたかどうかを確認する。 ・次回の予定を連絡する		
終末	時間をとって生徒自身が発表した方がよい			

思いやり育成プログラム（VLF）実践例

今回は時間的に**実践**（ロールプレイなど）は取り入れられなかった。**ホームワーク**として連絡帳で簡単に取り組みの意図と様子を知らせた。



HR活動3カ年計画（例）

学年	行事	調査・学級活動	SST (ソーシャルスキルトレーニング)	SGE (構成的グループエンカウンター)	VLF (思いやり育成プログラム)
1年	入学	学級目標、自己目標 係、委員会決め	あいさつ (実習と関連させて)	出会いのエクササイズ 自己紹介エクササイズ 信頼体験・ふれあいのエクササイズ	1年生はSGEや各行事での学級の取り組みを柱に、まずは担任やクラスメイトとのリレーションを築くことを第一とし、安心して自分を出せる環境を作る。
	体育祭	歓迎会出し物			
	校内実習				
	宿泊学習	宿泊へ向けた活動 (学級単位の取り組み)			
	夏休み			夏休みの思い出	
	校内実習	エゴグラム (自己の特徴を知る)		自己を知るエクササイズ	
	学園祭	後期の自己目標			
2年	予餞会	予餞会準備		1年を振り返って	
	進級	学級目標、自己目標 係決め	上手な聴き方 上手な質問の仕方 やさしい頼み方	新しい担任とのリレーションを築くエクササイズ	「相手のことを考えて」 ～子猫のネネ～ 「みんな仲間」 ～にじいろのさかな～ 「仲間はずれ」 ～にじいろのさかなしましまをたすける～ (パートナーインタビューを中心に)
	体育祭	学級生活満足度尺度 ソーシャルスキル尺度			
	職場実習	役割取得能力テスト			
	宿泊学習	宿泊へ向けた活動 (学級単位の取り組み)			
	夏休み				
	職場実習				
	学園祭				
3年	予餞会	予餞会準備		1年を振り返って	
	進級	学級目標、係決め 学級生活満足度尺度	温かいメッセージ 気持ちを分かち合う	新しい担任とのリレーションを築くエクササイズ	3年生は卒業を見据えたSSTと調査によって知り得たデータを元に学級ごとのVLFを行う。SGEではさらに個の深層に入り、自己の課題解決へ向かう。
	体育祭	ソーシャルスキル尺度 役割取得能力テスト			
	職場実習				
	修学旅行	修学旅行へ向けた活動 (学級単位の取り組み)			
	夏休み			自己理解のエクササイズ 他者理解のエクササイズ 適切な自己主張	
	職場実習				
	学園祭				
3年	予餞会	予餞会式の準備	自分を守る 不平不満の言い方		割取得能力テストを受けた題材 (ロールプレイ、手紙などを中心に)
	卒業	卒業式の準備			

五 普通教科部会の実践

本校では、普通教科は社会自立に必要な力を養う学習と位置づけている。本校で実践している普通教科は表の通りである。

週に一時間	国語
	社会
	数学Ⅰ
	数学Ⅱ
	理科
	音楽
	美術
	保体
	情報
	職業
週に三時間	外国語 (英語)
	家庭

(1) 研究のテーマ

○研究のテーマ

- 1 学習内容の定着を図るための学習指導の工夫をする。
 - ・ 「できる・わかる」達成感が持てる学習活動の工夫。
 - ・ 体験的な学習に系統的・継続的に取り組める計画作り。
- 2 キャリア発達の視点から、指導計画の見直しをし、自立のために必要な基礎的な学力を整理する。

(2) テーマについて

○普通教科指導の課題

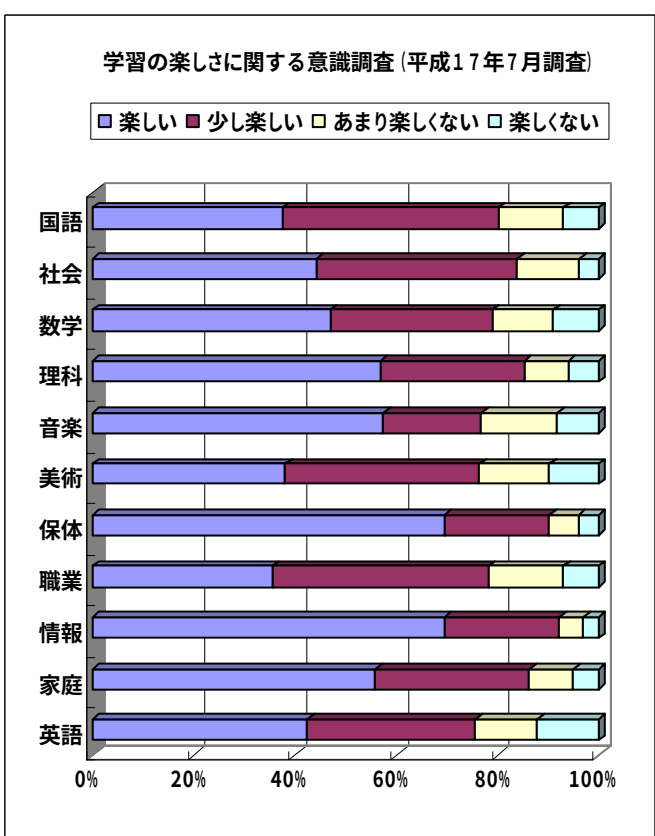
普通教科の指導では、基礎学力の向上が課題となっている。保護者及び職員の学校評価では、学習指導の項目の中で、生徒の基礎学力の向上が図れているとは思えないという割合が、他

の項目に比べて高くなっている。

○これまでの実践の成果

これまでの普通教科の実践では、社会自立に必要な学習内容を精選し、定着を図るための指導計画を整えるようにしてきた。また、その計画に基づいた個別の指導計画も作成している。

学習指導にあっても、生徒の主体的な学習が確実な定着につながるであろうという仮設のもと、「楽しい学習」をテーマにした取り組みを行い、生徒の意識調査結果に示されたような一定の成果を挙げることができた。



○課題の原因と取り組みについて

指導計画が整い、生徒たちも学習に生き生きと取り組んでいるにも拘らず、「基礎学力の向上」が覚えなれないと感じられる原因は何か。

普通教科部会では、学習がその場限りになってしまっていることが原因ではないか、生徒が積極的・主体的に取り組める授業展開であっても、そこで学んだことが、次の場面に活かされることが少ないのではないかと考えた。

そこで、学習したことが確実に定着するような指導・支援の工夫を一層進めるとともに、次の場面に活かせるような方法を整理することを目指してテーマを設定した。

(3) キャリア発達の視点との関連

○「活用能力」としての関連付け

キャリア発達の視点では、発達に必要な四領域の能力（人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力）を実際に使う「活用能力」と考えて、普通教科の課題を解決する糸口とすることにした。

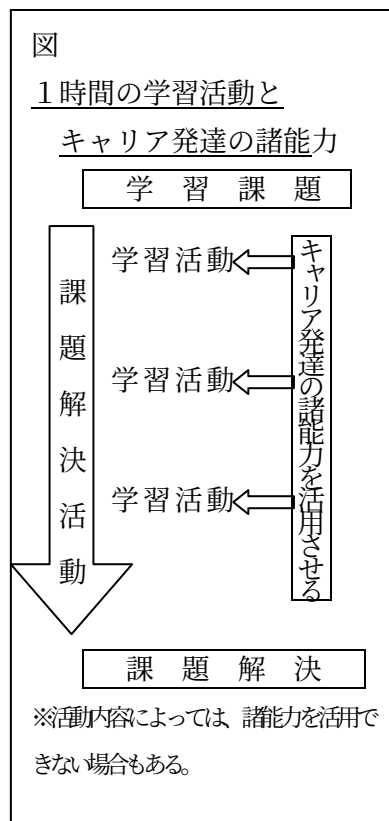
「活用能力」とは、知識として理解していることよりも、身につく「技術・技能」に近いイメージである。従って、実際に活用する経験を重ねることで、身に付き高まる力と考えられる。普通教科では、その教科のねらいに沿って設定した学習活動

に、四つの能力を活用する場面を見つけて関連付けをした。

○キャリア発達と学習活動の関連

関連付けをした指導計画に沿って各題材（単元）でどのような学習活動を設定し、どのような支援をするのかを整理する。

学習課題と学習活動、キャリア発達の諸能力については図のようになっている。



諸能力を養うための学習活動を特別に用意するのではなく、学習課題の解決に向けた学習活動について、そこで発揮できる諸能力は何か、よりよく発揮できるようにするための工夫はどのようなものか等を明確にして、指導・支援をすることである。

活用する経験を重ねることで身に付き、高まる力であるので、できるだけ多くの活用場面を設定することが有効であると考えている。

1 年〇組 職業科 学習指導案

日 時 平成 17 年 12 月 16 日(金)第 5 校時

場 所 1 年〇組教室

1. 題材名 言葉のマナー ～あたたかい言葉かけ～

2. 題材設定の理由

職場実習先や就職先の方から、よく指導いただくことは「仕事はこれから覚えてもらえばよいが、職場のみんなとうまくやってもらわないと困る」と、いうことである。出勤時の挨拶に始まり、仕事の手順を教えたときの返事、休憩や昼食時間の会話などコミュニケーションの面で心配や懸念をもたれることが多い。事実、学校生活においても級友への言葉かけには注意を払わないが、自分に向けられた言葉にはひどく敏感で、傷ついたり悩んだりすることが多い。また、人との交わりが苦手で自分の要求や他への不平をぶっきらぼうに発してしまい、うまく自分の気持ちを表現できない場面も見受けられる。

そこで、よりよい人間関係を築くために欠かすことのできない言葉かけの大切さに気づかせ、いくつかのポイントを学ぶことによって相手の気持ちや立場を尊重した言葉かけができるようにしたいと考え、本題材を設定した。この授業をきっかけに日常生活での言葉かけや会話で実践し、さらに交友関係や仲間との信頼関係を深め、自信を持って 2 年後には社会に巣立ってほしいと考えている。

○キャリア発達の視点

「意志決定能力」…………… その場の状況に応じてよりよい言葉遣いを考え、行動する。

「人間関係形成能力」… 相手の気持ちや立場に配慮しながら積極的に好ましい人間関係を築こうとする。

「情報活用能力」…………… 話しかけてもよいときなのかなど相手の状況を理解する。

3. 題材の目標

- 相手の気持ちや立場に立った、言葉遣いについての理解を深める。
- よりよい人間関係を保つためのあたたかい言葉かけや話し方のマナーが実践できる。

4. 指導計画（3 時間扱い）

- (1) あたたかい言葉かけ……………本時
- (2) 上手な断り方・自分を大切にする話し方
- (3) 楽しい会話・みんなと話そう

5. 本時の指導

(1) ねらい あたたかい言葉とは何かを知り、体験を通してその良さを味わう。

(2) 展開

時配	学習活動	活動への支援
5	1. 本時の学習内容を知る。 ことばのマナー ①暖かい言葉かけ	どんな言葉があたたかいかの問題意識を持つような身近な例をあげる。
35	2. 暖かい言葉とはどんな言葉か考える。 【冷たい】やだ・めんどくさい・できない 悪口・外見・命令・乱暴な言葉 【暖かい】すごい・がんばれ・ありがとう ほめる・励ます・感謝 3. 『スキルトレーニング』を行う。 ・ワークシートに「その人の様子+感情語」で声かけの言葉を書き込む。 ・ロールプレイ式に発表しあう。 ・朝のマラソンを頑張っている人へ ・体調が悪く休んだ人へ ・鍵をなくした人へ ・荷物を運んでくれた人へ 4. 発表を通して、わかったことをまとめる ・声かけの時、心がけたこと ・暖かい言葉を受けたときの気持ち	- 自分の体験を元に対比によって発言を促す。 - 発言が予想させることばのカードを掲示する。 - 相手への配慮の大切さを理解するために言われたときの気持ちを振り返る。 - 友達の気持ちをわかって声かけができるようにワークシートへの書き込みを行う。 - 声の大きさや抑揚、表情も大切であることに気づかせるために3人組で行う。 - 声かけされた時の返事も促す。 「心を伝える話し方」の確認を行う。
5	5. 学習したことを基に、身近な人への暖かい言葉かけをメモする。 次時の予告を聞く。	- 友達だけでなく家族や大人への言葉かけもできるようにする。 - 上手な断り方の学習と伝える。

(3) 評価

○学習の評価

- ・興味関心を持って学習に取り組むことができたか。
- ・あたたかい言葉かけについて理解し、遣うことができたか。
- ・日常生活でも心がけようと思えることができたか。

○支援の評価

- ・題材の指導計画は適切であったか。
- ・スキルトレーニングのメニューは適切であったか。

年間指導計画とキャリア発達の諸能力との関連表（職業科2年）

指導計画			キャリア発達の視点			
題材	目標	主な学習内容	人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意志決定能力
未来予想図	・自分の進路、将来をどのように考えているのかを確認する。	・作文			◎目標とする将来の生き方や進路を考える。	◎進路の実現に向けた自分の課題を設定する。
進路を決めるには	・卒業後の進路先を調べ、仕事内容を整理して色々な働き方があることを知る。 ・職業についての情報を集める方法を知り、興味のある職業について調べる。	・卒業生の進路先を確認し、その仕事内容を職業別に書き出す。 ・求人広告を見て、仕事内容や勤務時間、給料などを読み取る。		◎進路・職業に関する様々な情報を集め、自分自身と結びつけて整理する。		
現場実習事前学習 現場実習事後学習	・実習に際し、心がけることを具体的に理解する。 ・実習日誌を活用し、成果と課題点を整理する。	・実習の心得をテキストで確認し、具体的な行動について考える。 ・成果と課題を確認する。	◎学校とは異なる集団の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築く。			◎選択結果を受け入れ、進路の実現に向けて課題を設定し、取り組む。
職業レディネステスト	・自分の職業志向性を確認する。	・質問項目に沿って回答用紙に記入する。	◎自己理解を深める。			
給料と生活、貯金	・給料の使い方を確認する。 ・貯金の意義を知る。	・家計のシミュレーションをする。			◎社会の現実を踏まえながら、自分の将来の生活を設計する。	◎様々な選択肢について比較検討し、自分にあった選択・決定をする。
職場でのトラブルを知り、解決方法を考える	・職業生活に必要なソーシャルスキルを理解する。	・ソーシャルスキルに関するロールプレイをする。	◎多様な集団の中でコミュニケーションや人間関係を築く。			
色々な働き方	・働き方には正社員の他、パート・アルバイト・派遣等があり、その違いを知る。	・資料で確認しながらワークシートに書き込む。 ・発表を通して確認する。		◎働くことの意義や役割を理解し、進路や生き方の選択に生かす。	◎仕事上の多様な役割等を理解し、自分の果たす役割について認識を深める。	
労働条件	・労働時間、賃金、休暇等についての知識を深める。	・情報誌やインターネットなどを活用して情報を集め、必要項目について整理する。		◎目標とすべき将来の生き方や進路を考え、実現のための様々な条件を整理する。		
色々な生活の場	・グループホーム、生活ホーム、通勤寮等について理解を深める。	・それぞれ生活の場の様子についてVTRを見る。			◎社会の現実を踏まえながら、自分の将来の生活を設計する。	
人との付き合い	・グループでの食事の会計などで、個別払いと割り勘の区別ができる。	・ロールプレイをする。		◎社会生活に必要な情報を集め、自分の生活と結びつけて活用する。		◎様々な選択肢について比較検討し、自分にあった選択・決定をする。
職業適性検査	・職業に関する自己理解を深める。	・検査を受ける。	◎自己理解を深める。			

〈関連づけの観点〉

- ・各題材（単元）に関連づけを行う。
- ・特に学習活動に着目して関連づけを行う。
- ・1題材（単元）に、すべての能力を関連づけることはしない。
（題材によっては1つの能力であったり、4つの能力との関連づけであったりする。）